

業界の

声

● 山梨県製麺協同組合

専務理事 八代 善雄氏

業界の景況は？

現在、当業界に一番の打撃を与えているのは小麦価格の高騰です。小麦価格は、昨年同月と比べ約45%、平成18年頃と比べると約2.5倍にも値上がりしています。現在もバイオ燃料としての需要増大、中国やインド等の経済発展による需要増大、地球規模での気候変動の影響等で穀物需給は逼迫しており、小麦価格は今後もさらに高騰していくと予想されます。そうした中、各製麺業者も販売価格の改定を取引先にはお願いはしているものの、ここ数年続いている不況の影響もあり、価格交渉が難航している業者も多いようです。

今後の組合の活動は？

現在、力を入れようと考えているのは『おざら』の普及です。『おざら』とは、しなやかな「コシの強さ」とさらりとした「のどごし」を楽しむ、夏バージョンの「ほうとう」です。『おざら』は当組合が10年ほど前、冬場によく楽しむ「ほうとう」を夏場にも楽しめるように、と開発したものです。今では『おざら』の知名度も上がっており、今後は家庭でも食されるよう、普及活動を続けていきたいです。

また、「ほうとう」の普及も継続して行っていきます。現在、「ほうとう」の知名度は県外にまで渡っており、山梨を訪れた観光客の多くは「ほうとう」をお土産として購入して頂いています。しかし、県内の若者の間では「ほうとう離れ」の現象も起きています。『甲州ほうとう』はヘルシー料理としての魅力も十分に持ち合わせているので、今後はそういった面からの普及も視野に入れ、新しい形の『甲州ほうとう』を模索していきたいです。



山梨県製麺協同組合が開発した「おざら」